



今月のトピックス



緩和ケアとオピオイド鎮痛薬 そこが知りたいQ&A

アメリカでは、ぎっくり腰でもオピオイドが使われる。人生や生活の優先度に合わせてお薬を選択する



お話を伺ったのは…【記事監修】在宅療養支援クリニック「かえでの風」 理事長・宮木 大 先生

東京都生まれ。2001年、鹿児島大学医学部卒業。慶應義塾大学医学部救命救急部に所属後、日野市立病院、川崎市立川崎病院などで勤務。米・ノースカロライナ大学留学などを経て、2012年より現職。経営学修士。目白大学経営学研究所客員研究員。

「痛みを取るためのお薬にはさまざまな種類があります。患者さんの生活や人生の優先度に合わせて、お薬を選択することができます。痛みや副作用は我慢せず、何でも医師や看護師へご相談ください」

緩和ケアとオピオイド鎮痛薬について、さらに詳しく、在宅療養支援クリニック「かえでの風」理事長・宮木大先生にお話を伺いました。

◎ オピオイド（医療用麻薬）という怖いイメージがあります。なるべく使わずに我慢したほうがいいのでしょうか

▲ オピオイドは、米国ではぎっくり腰にも使われます。痛みは、小さいうちに対処することが大切です

医療用麻薬には非常に優れた鎮静作用があるため、上手に活用することが重要です。アセトアミノフェン(カロナール)やロキソニンなど鎮痛剤の量が多くなるようでしたら、12時間に1度貼るだけのオピオイドの方が多剤併用を防ぐという意味でも有用です。アメリカでは、ぎっくり腰にもオピオイドは処方されるほど一般的です。

痛みのレベル10段階のうち、レベル1の痛みを抑えるのには1の痛み止めで効きます。しかし、レベル5の痛みには痛み止めを10~15使わないと効きません。痛みを限界まで我慢すると、痛み止めを20~30使わないと効果が現れません。痛みが小さいうちに薬を使い、早めに対処することが大切です。我慢をする必要はありません。

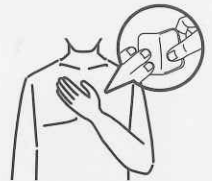
痛みを我慢しないでいいですよ



◎ 坐薬や点滴のオピオイドは、症状が進行した人が使うイメージがあります……

▲ そんなことはありません。ご本人の鎮痛のために、いちばん効率がいいものを使用していきます

患者さんの中には、坐薬や点滴には強い拒否感をもたれる方がいらっしゃいます。これは、坐薬や点滴は、内服薬が効かなくなった(飲めなくなった)人が使うものというイメージがあるのかもしれません。しかし実際は違います。たとえばフェンタニルやトラマドールは、呼吸苦にはほとんど効果がないため、モルヒネの坐薬や注射剤などが使われます。それぞれのオピオイドには、効果や効くまでの時間などに違いがあります。“ご本人の鎮痛のために、どれがいちばん効率がいいか？”を考えて、医師は処方を行っています。



◎ オピオイドには依存性があると聞いたので心配です

▲ 医療用麻薬は、依存にならないように設計されています。安心して使用してください

オピオイドは、痛みがある患者さんが使用しても依存が起こりにくいされています。なぜなら、そもそも痛みにより、快楽物質であるドーパミンの働きが抑えられているので、ドーパミンの過剰放出による快楽が起こらないからです。具体的な数字でご説明すると、1日に100回程度使わないと中毒にはなりません。医療用麻薬であるオピオイドは、依存にならないように設計がされていますので安心して使用してください。



◎ オピオイドを使うと、余命が短くなると聞いたのですが本当ですか？

▲ 使用しても、使用しなくても、余命に変化はありません

適切に使用していれば、オピオイドが寿命を縮めることはありません。ある研究では、オピオイド以外での緩和ケアと、オピオイドでの緩和ケアでは、両者の余命に差はないと報告されています。

◎ オピオイドは副作用がキツイといわれますが、大丈夫でしょうか

▲ 対処できる薬剤があります

オピオイドで最も多い副作用は、便秘、悪心・吐き気、眠気(傾眠)です。どの副作用にも対処できるお薬がありますし、便秘がある方なら、便秘になりにくいフェンタニルやトラマドールを使うこともあります。また眠くなってしまって家族と意思疎通ができないことに拒否感がある方でしたら、コミュニケーションがとりやすい薬剤を選択します。その方が何をいちばん優先するかでお薬を選択していきますし、在宅診療では特に、こまめにお薬の調整ができます。ご心配なことがあれば、お気軽にご相談ください。



◎ 緩和ケアは、がん以外の方も受けられるのですか？

▲ さまざまな病気の方が受けておられます

たとえば心臓や肺の病気の方、神経難病の方なども緩和ケアを受けておられます。こういう方々にもオピオイドを使った苦しさを取るための治療は、積極的に行われています(法律的にも認められています)。

◎ 在宅でも、病院と同じように痛みのコントロールをしてもらえるのでしょうか？

▲ 在宅でも、入院中とほとんど同じ治療が受けられます

在宅だと痛みのコントロールが受けられないのではないか、入院中と同じ治療が受けられないのではないか、と心配される方がいらっしゃいますが、病院での治療とほぼ同じ内容が受けられます。使える薬剤(オピオイド)も全く同じです。

若干異なるのは、シリンジポンプが使えないことぐらいです。シリンジポンプとは、シリンジ(注射器)をモーターで押し出し、薬剤を持続的に一定速度(たとえば1時間に1mlずつなど)で注入する医療機器のことです。

